

行政の窓



平成30年 特用林産統計について



【特用林産物生産額】

平成30年における道内の特用林産物の生産額（以下、推計額）は、全体の96.9%を占めるきのこ類が減少したことにより、総額は約114億円（前年比93.9%）と前年を下回りました。

【きのこ類の生産動向】

平成30年のきのこ類の生産額は約111億円（前年比94.7%）、生産量は18,619トン（前年比91.9%）といずれも前年を下回りました。このうち、道内で最も生産量の多い「生しいたけ」（原木及び菌床）は生産量が7,240トン（前年比94.8%）、生産額は約53億円（前年比95%）、と前年を下回りました。

また、近年、きくらげ類の生産が伸びており、平成30年の生産量は生換算で317トン（前年比106%）と全国生産量の13.7%を占め、都道府県別で岐阜県に次ぐ、第2位の生産量となっています。

【木炭の生産動向】

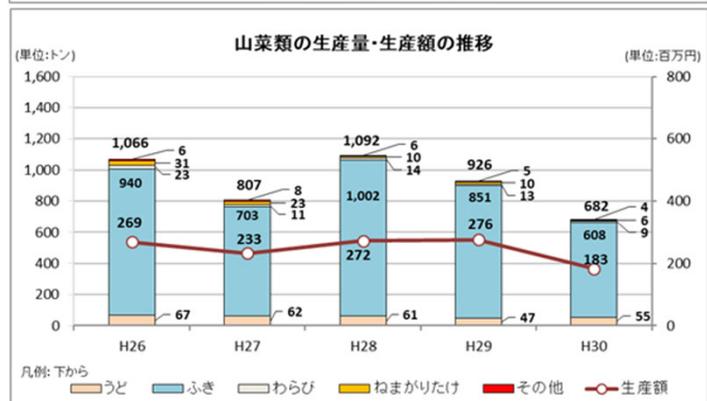
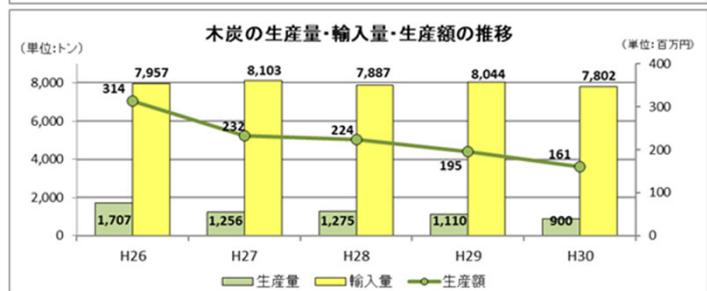
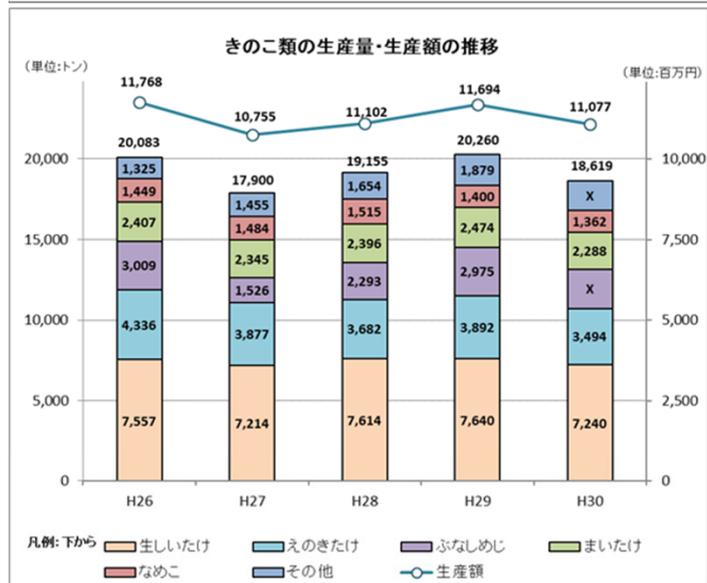
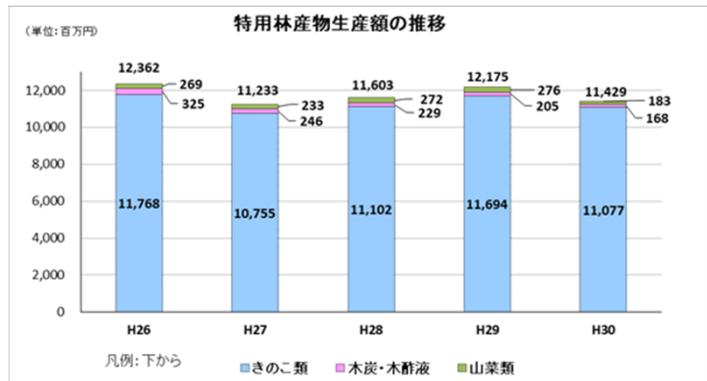
平成30年の生産量は900トン（前年比81%）、生産額は161百万円（前年比82.4%）、輸入量いずれも前年を下回っています。

【主な山菜類の生産動向】

道内における山菜類の生産は、天然物の採取が中心のため、生産量は天候に左右される特徴があり、平成30年は生産量が682トン（前年比73.6%）、生産額は183百万円（前年比66.3%）と何れも前年を下回りました。

平成30年の統計調査結果から、調査対象者数が2以下の場合、個人又は法人その他の団体に関する調査結果の秘密保護の観点から、当該結果を「X」表示とする秘匿措置を施しています。

また、全体（計）から差し引きにより、秘匿措置を施した当該結果が推定できる場合についても「X」表示しています。



(水産林務部林務局林業木材課流通加工グループ)